

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590800035		
法人名	有限会社 大木産業		
事業所名	グループホーム稲穂		
所在地	宮崎県西都市大字南方3372番地7		
自己評価作成日	平成25年 7月 1日	評価結果市町村受理日	平成25年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4590800035-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年7月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者の意思を尊重し、自由に、それぞれのペースで過ごしていただけるよう取り組んでいる。
- ・入居者のできることとできないことの見極めをした上で、職員優先での先走りケアをしないよう取り組んでいる。
- ・入居者の気持ちを最優先し、希望があれば、いつでもドライブや食事にでかけ、気分転換が図れるよう取り組んでいる。
- ・夜間帯以外は、玄関等に施錠せずいつでも自由に出入りができるようにしている。
- ・地域の祭りなどには必ず参加し、地域住民と入居者との交流の場面作りに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域高齢者の憩いの場を提供したいという施設長の思いから、2012年4月に開設されたホームである。管理者は、これまでの経験から「一緒に」「楽しく」「のんびりと」をケア理念に、職員の実践につながるよう努め、地域に対して認知症、グループホームへの理解を求める活動にも力を入れている。ホームでは、利用者と職員がレクリエーションを通して、楽しく笑顔で日中を過ごし、川遊びなどのなじみの場所への外出など、一人ひとりに応じた何気ない支援が行われ、利用者がのんびりと笑顔で過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営理念とケア理念をホーム廊下に提示しているが、職員全員には浸透していない現状があった。理念を各職員が理解し、みんなで共有し意識づけしていくために、話し合いを行っていきながら実践につなげていきたい。	事業所開設時に、運営理念とケア理念「一緒に」「楽しく」「のんびりと」を掲げ、職員もケア理念を理解し、実践に向けて取り組んでいる。	事業所開設時に施設長、管理者で考えられた理念である。今後見直しも考えているとのことであるため、職員と一緒に地域密着も念頭に置いた理念を作成していくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの神社への散歩やふれあい祭りの体操コンテストに出たり、農業祭、地区祭り、地区の軽トラ市などに全員で参加させていただき交流を図っている。	地域の祭りや福祉祭り等に出掛け、地域との交流を図っている。今年のホームの祭りでは、地域の方の参加も計画しており、日常的な交流となるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところは、地域住民に向けての活動は行っていない。今後は、認知症の人の理解をしていただくために、勉強会などを開催していきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状態、活動状況などを報告し、アドバイスや意見などを求めている。その内容については、職員会議などにおいて報告し、サービスの向上に活かしている。	2か月ごとに開催し、駐在所、市職員、消防署からの参加があり、利用者の状態報告等が行われ、散歩をする利用者についてのアドバイス等をサービスの向上に生かせるよう取り組んでいる。	区長や有識者等のメンバーの充実を図り、会議での意見交換から更なるサービスの向上を図る取組に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から情報交換は行っており、入居者の外出などについての相談や会議の開催など、問題解決に向けて一緒に取り組んでいる。	ホームの開設当初から、日常的な連携が取れている。利用者の外出について等で密に連絡を取り合い、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は、玄関や勝手口には施錠しておらず、自由に中庭などの散歩や草取りができるようにしている。また、言葉での拘束をしないよう、常に職員会議で話し合いを行っている。	玄関や勝手口の施錠は日中されていない。管理者は、言葉での拘束を常に意識し、職員会議ごとに職員へ話をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などにおいて、言葉の虐待とは何かを常に話し合いながら、入居者が日々の生活の中で、不安や苦痛な思いをしないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方がいるが、この制度についての勉強会などはしていないため、すべての職員がこの制度についての理解ができていない。今後は、職員会議などにおいて学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、出来る限りわかりやすく説明をし、不安や疑問点などが無いかを確認し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回、状態報告のお手紙を家族に送っている。また、面会毎に状態などの報告をし、家族からの意見を聞き、職員間で共有し、より良い支援が出来るように心がけている。また、玄関に投書箱を設置している。	家族へは、来訪時に利用者の近況報告や意見を聞けるように対応している。毎月の状態報告の手紙を送るなど、家族との関係作りを行い、意見が反映出来るように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議、毎日の申し送り時に、意見や提案を聞く機会を設け、可能な限り職員から出された意見や提案を反映させるようにしている。	管理者は、年に1回の自己チェックを行い、面談も行っている。職員からの意見も活発であり、施設長も提案に対応し報告を行い、職員の意見を反映する取組が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、副施設長から、管理者や職員個々の努力や勤務状況などを確認し、把握している。また、職員会議や日頃のコミュニケーションにより、管理者や職員個々が楽しく働けるように、環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、副施設長から、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量などを確認し、把握している。必要に応じて、法人内・外の研修を受ける機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話等にて情報交換や相談、入居者間の交流を図ったりすることにより、サービスの質を向上させるよう取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人、家族、関係機関等への聞き取りを行っている。入居後は、職員が近くに寄り添い、声かけなどを行うことで、少しでも早くホームに慣れ、安心して過ごしていただけよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族と十分な話し合いを行い、少しでも不安が解消されるよう、家族との関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム以外のサービスが必要となった場合は、必要に応じて他のサービス機関への紹介、連絡調整などを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「自分でできることは自分でやる」をモットーに声かけ・見守りを行っている。職員は、介護職ではあるが、入居者と一緒に、笑ったり、泣いたり、怒ったり、その空間を入居者と楽しく過ごすという気持ちで、日々の業務にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事を設け、時間を共有できるようにしている。また、状態報告などの手紙を書き、近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望すれば、家族に相談の上、出来る限りの支援をするようにしている。	住んでいた家のそばへの外出やなじみの場所への買い物に出掛けている。川遊びにも出掛け、なじみの場所や人との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性、性格を把握し、本人の能力に応じた役割分担をしている。入居者間の交流を見守りながら、より良い関係性が保てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も面会に行ったり、必要に応じて、家族や本人の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者本人からの希望がある場合は、それに沿えるようにし、家族にも協力していただいている。	家族から生活歴を聞き取り、利用者とは居室でお茶を飲みながら話を聞くなど、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人や家族から聞き取りを行い、情報の収集に努めている。また、入居後も日々のコミュニケーションの中で、さりげなく、話を引き出すよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアの中で、一人ひとりの過ごし方や状態を観察・記録し、すべての職員が現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族面会時や職員会議時に、意見・要望などを聞き取り、計画書に取り入れている。	モニタリングは毎月行い、計画の見直しは3か月ごとに行っている。職員は、利用者の状態を記録し、計画作成者は職員会議等にて意見を取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画の作成は、計画作成担当者が一人で行っているような現状がある。介護記録の工夫や担当制の導入など、チームでの介護計画作成、目標の周知を図っていくことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の健康チェック、生活の状況などを個別記録に記入し、それを職員がチェックし、情報を共有している。また、毎月の職員会議で話し合いを行い、計画書の見直しにそれを活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、病院受診介助や買物支援、外出支援などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩をする際、近所の方々とあいさつを交わしたり、声かけをして頂いている。また、事故などを考慮し、派出所などとも連絡を取っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の同意を得られれば、当ホームの協力医に主治医を変更し、月1回往診をお願いしている。いつでも連絡ができ、主治医との連携も密に取れている。以前からのかかりつけ医を希望される場合は、意向通りの医療機関の受診ができるように支援している。	本人、家族の同意の下、協力医への変更をし、月に1度の往診を行っている。掛かりつけ医の利用者へは、受診支援も行っている。専門医受診も3か月に1度行い、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内には看護職はいないが、訪問看護との連携が取れており、週に1回、訪問に来た時に状態を報告し、アドバイスを頂いている。また、24時間体制でいつでも連絡がとれるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は、情報を提供し、入院期間や治療方針などの情報収集をするようにしている。また、病院関係者から退院に向けての情報を早めにもらえるように、入院当初からの関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合の説明をしている。その時の状況に応じて、早めに本人・家族・主治医・訪問看護等との話し合いを行い、出来る限り終末期を、安心して向かえることができるよう支援していきたい。	入居時に、重度化した場合の説明を行い、同意書も作成している。協力医、訪問看護ステーションとも協力関係を築き、重度化や終末期に向けた方針と取組が行われている。	ホームとしての方針は開設時に決められているが、職員の対応に対する不安の解消をするなど、チームでの支援に向けての取組を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践できていない。全ての職員が何が起きても慌てず、確実かつ適切な行動をとることができるよう応急手当や初期対応などの訓練を随時、行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者も含めた避難訓練を実施している。隣近所へは、災害時は協力していただきたいとお願いをしているが、実際にはまだ地域を含めた避難訓練は実施していない。	消防を交えての訓練と夜間想定での訓練を年2回実施している。備蓄もあり、近隣住民の協力体制も築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉を選びながら、一人ひとりの性格に合わせた声かけを心がけている。また、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行うよう努めている。	利用者への言葉掛けには十分に配慮し、排せつ時や入浴時のプライバシーにも十分に気をつけ、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を受け止め、本人の能力に合わせ、自己決定ができるよう、さりげない声かけ・誘導をするように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの、その時の気分やペースに合わせ、こちらの都合を優先することなく、その時の状態に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性入居者は、化粧品や衣類などを必要に応じて購入し、その人らしい身だしなみやおしゃれが自分の意思でできるように支援している。男性入居者は、毎朝、自分で髭剃りができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嫌いな物を把握し、別メニューを提供するようにしている。入居者の力量に合わせて、台拭き、配膳、下膳、料理の下ごしらえ、茶碗洗い、お盆拭きなどを一緒に行っている。	施設長が、「生きることは食べるのが大切だ」という考えから、職員も同じ食事を利用者と一緒に食べている。利用者は役割もあり、準備、配ぜん、下ぜんを一緒に行っている。さりげない声掛けや介助をしながら、楽しく食事が出来る支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量が少ない時は、定時以外にもパン(小)や本人の好む飲み物等を提供し、少しでも摂取していただけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、毎食後に、歯磨き・うがいの声かけと見守りを行っている。また、義歯を装着している入居者には、夜間のみ専用ケースに入れていただき、義歯洗浄剤に浸けるよう支援している。		

宮崎県西都市 グループホーム稲穂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ外しに取り組んでいる。以前は時間を決めてトイレ誘導をしていたが、現在は必要な方のみさりげなく早めの声かけを行うように支援している。失禁があっても負担に感じないように、さりげなく更衣の見守り・介助などを行っている。	オムツ外しに取り組んでおり、成功した事例が何例もある。声掛けは行わず、利用者から声掛けがあるまで待つ支援方法をとっている。温かく見守りながら、排せつの自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操やレクリエーションで体を動かすようにしている。また、毎朝、ヨーグルトを提供している。水分摂取の声かけや簡単な腹部マッサージ、必要に応じて主治医に相談し、内服薬等での排便コントロールを合わせて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	「寝る前に、毎日入りたい」という希望により、夜間に毎日入浴をしていただいている入居者は数名いるが、その他は、職員の都合で入浴日や入浴時間などを決めてしまっている。好きな時に入っていただけ環境作りの検討をしている。	入浴日や入浴時間は決められているが、寝る前に入りたい利用者3名には、希望通りの支援が行われている。好きな時間帯に入浴出来る環境作りも検討し、入浴を楽しむ支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、一人ひとりの意思やその時々状況に応じて休んでいただいている。夜間は、「眠れない」と言われた時はじっくりと話を聞いたり、一緒にテレビを見たりして過ごし、無理に、寝ていただいたり、起こしたりしないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員周知の場所に服薬説明書を置き、内服薬が変更になった時には、説明書の差し替えをした上で、必ず記録に残し、申し送るようになっている。また、服薬は、3人の目で確認をすることにより、誤薬がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じた役割(掃除、洗濯、食器洗い等)を持っていただき、張り合いのある毎日を過ごしていただけるよう支援している。また、焼酎を好まれる方には、焼酎を、梅昆布茶が好きな方には梅昆布茶を提供する等、楽しみを持った生活をしていただくよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の能力に応じて1人で外出(散歩、買物)ができるようGPS機能付の携帯電話を持っていたり、好きな時に自由に外出ができるよう支援している。また、1人での外出が難しい方には、希望時に、できるだけ一緒にでかけることができるよう支援している。	外出をよくする利用者には、GPSを利用し、好きな時間帯に外出ができるよう支援している。利用者の希望する場所等にも家族と協力して外出し、川遊びにも出掛けるなど、日常的な外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣い程度を事務所で預かっているが、本人が希望される場合は、本人に渡すようにしており、買物等が自由にできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、親戚、美容室など、本人の意思にそって、いつでも電話が掛けられるよう支援している。また、年賀状などを家族や友人に送るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールと台所が接しており、野菜等を切る包丁の音や料理のにおいを間近で感じるなど、生活感にあふれている。また、ホールの壁に、入居者が作成した貼り絵を飾るなどして、季節感を味わうなどの工夫をしている。	共用空間では、台所と接したホール、和室があり、窓からは季節ごとののどかな風景が見渡せる。ホールの壁などには、利用者が作成した貼り絵等が飾られていた。ホールでは、日中はレクリエーションを楽しむ利用者、職員の声があふれ、居心地良く過ごせるよう配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室のソファや廊下のソファを利用し、1人でゆっくりされたり、他入居者と楽しく談話ができるよう、座る位置などの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた物をそのまま持ち込んでいただき、使い慣れた、見覚えのある物で、居心地よく過ごすことができるよう工夫している。また、家族写真などを壁に貼るなどして、いつでも家族と一緒に空間作りの工夫をしている。	居室には、使い慣れたタンスやいすが持ち込まれ、自宅の中の一つの部屋のように工夫がなされている。家族の写真なども飾られ、本人が居心地良く過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを設置しており、1人でも安全に移動ができるように支援している。また、居室やトイレなどの場所がわかるように標示し、ホーム内を1人でも安心して行動ができるよう工夫している。		